

愛川町可燃ごみ質分析調査結果

平成30年 7月

環境経済部環境課 廃棄物対策班

目 次

1. 目的	1
2. 調査実施日	1
3. 調査品目	2
4. 調査方法・手順	3
5. 結果	6
6. 食品ロス	12
7. 今後・対策	13
参考資料	15
参考	16
・愛川町可燃ごみ質分析調査結果一覧	
・過去5年分調査結果比較	

1. 目的

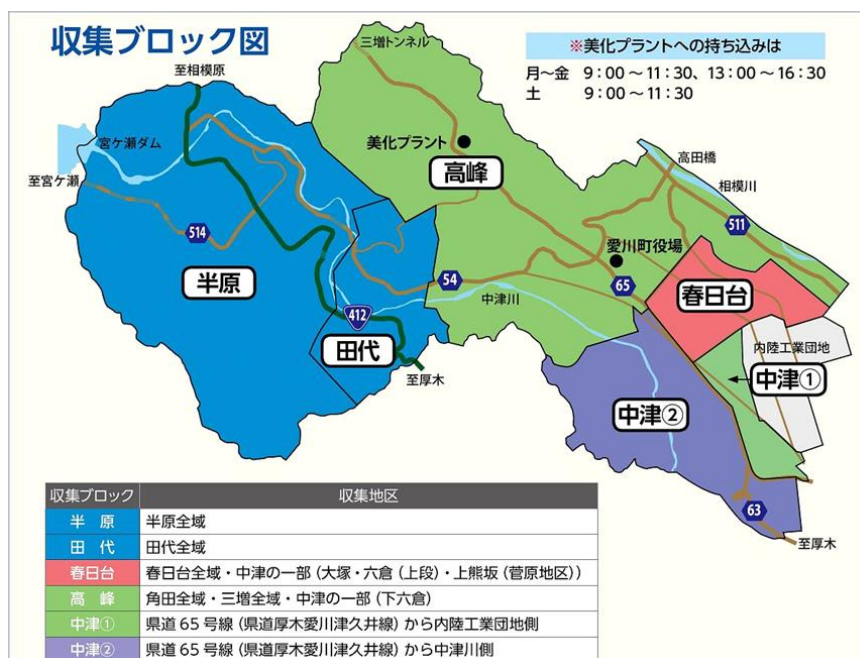
ごみの減量化・資源化の推進等を目的に、現状における可燃ごみの分別状況と過去に実施した当該調査結果を比較し、分別の達成状況の変化や今後の課題を把握するため、次のとおりごみ質分析調査を実施する。

なお、神奈川県ごみ処理広域化推進会議にて平成30年3月に策定された、「食品ロスの調査マニュアル」に基づき、生ごみについてより細かく分類し、調査を行うことで食品ロスの実態についても調査を行う。

2. 調査実施日

- 1) 半原・田代ブロック：平成30年6月7日（木）
- 2) 高 峰 ブ ロ ッ ク：平成30年6月5日（火）
- 3) 春日台ブロック：平成30年6月14日（木）
- 4) 中津①ブロック：平成30年6月15日（金）
- 5) 中津②ブロック：平成30年6月22日（金）

なお、本調査の対象は、「もやすごみ」とする。各収集ブロックの図面は次のとおり。



※町発行 ごみと資源 新分別の手引きより

3. 調査品目

湿ベース組成品目		備 考
紙 類	新聞・折込チラシ	資源化可能なもの
	雑誌・本・書籍	資源化可能なもの
	ダンボール	資源化可能なもの
	雑古紙（封筒・紙製容器など）	資源化可能なもの
	紙パック	資源化可能なもの
古 着 類		
生 ご み	直接廃棄	未開封・未加工食品等
	食べ残し	開封済み・加工済み食品等
	調理くず	魚などの骨や食品の皮など通常食べずに廃棄するもの
	（過剰除去）	調理くずの中で、本来食べれる部分まで過剰に除去されているもの
その他の可燃ごみ		上記以外の可燃ごみ
不 分 別 物 （ 可 燃 ご み 以 外 ）	資源A B	不燃ごみ類、ビン、乾電池、缶、ペットボトル等
	資源C（プラスチック製容器包装）	ボトル類、チューブ類、ポリ袋、ラップ類、網・ネット類、ふた・キャップ類、トレイ類、緩衝材
	資源C（剪定枝・落葉・草類等）	

4. 調査方法・手順

(1) 収集車両



直接廃棄された食品ロスの実態調査も兼ねているため、塵芥収集車は使用せず、破袋することなく収集を行なえる平ボディのトラックを使用し、収集を行なう。

(2) 採取状況



町内の収集ブロック別に収集所を巡り、検体を採取する。

検体は収集ブロックごとに、重量で100kg以上を採取することを目安に、30袋ほど採取する。

(3) 採取後



採取終了後は町ごみ中間処理施設である美化プラントで、組成率等調査を行なう。

(4) 使用器具等



計量器、調査品目毎の表示をしたかごを用意し、ブルーシートを敷いた上で、調査を行った。

(5) 計量 ～ 選別



はじめに、採取した検体全ての重量を計量器で量る。



次に、全重量の中から4分の1程度の量になるよう検体をピックアップする。このとき、外観で明らかに「もやすごみ」ではないものが大半を占めている検体については、組成率に偏りが生じてしまうため、調査対象としないこととする。



ピックアップした検体全ての外袋を破袋し、項目3の調査品目に沿って手選別を行なう。

(6) 各調査品目の計量



選別後、調査品目毎に計量を行う。

(例) ピックアップしなかった検体の例

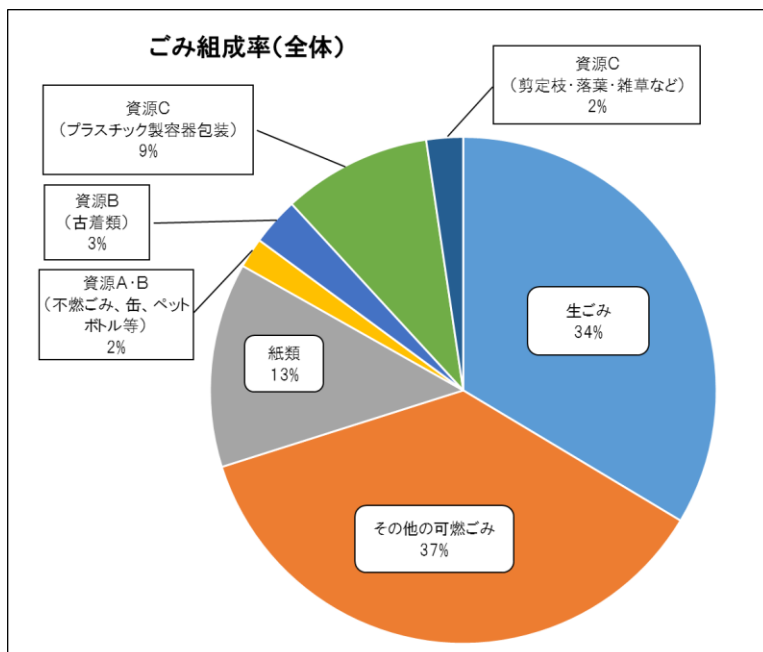


刈り草のみが排出されているものや、ビニールひもが大量に入っており、事業系ごみと疑われるもの。

5. 結果

(1) 全体

採取地区	全 体	
採取(調査)日		
天 候		
開始・終了時刻		
作業人員(人)		
採取俵量(kg)・袋数(袋)	54920	153
調査俵量(kg)・袋数(袋)	13782	47
温ベース組成品目	重量(kg)	重量比(%)
生ごみ	4630	33.59
直接廃棄	5.16	3.74
食べ残し	9.74	7.07
調理くず等 (内、過剰除去の量)	31.40	22.78
(内、過剰除去の量)	5.14	3.73
その他の可燃ごみ	50.33	36.52
もやすごみ	96.63	70.11
紙類	18.00	13.06
新聞・折込チラシ(資源化可能なもの)	1.92	1.39
雑誌・本・書籍(資源化可能なもの)	0.23	0.17
ダンボール(資源化可能なもの)	1.63	1.18
雑古紙(資源化可能なもの)	12.92	9.37
紙パック(資源化可能なもの)	1.30	0.94
不分別物	23.19	16.83
資源A・B (不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	2.65	1.92
資源B (古着類)	4.22	3.06
資源C (プラスチック製容器包装)	13.09	9.50
資源C (剪定枝・落葉・雑草など)	3.23	2.34
紙類 + 不分別物 (A)	41.19	29.89
総 量 (B)	137.82	
分別率(100-(A/B))(%)		70.10



全体の結果として、「生ごみ」と「その他の可燃ごみ」を合わせた、純粋な「もやすごみ」は、約70%となり、残りの約30%は資源物が含まれている結果となった。

資源物の中では、紙類が1番多く13%、次にプラスチック製容器包装が9%である。

各収集ブロックにおいて採取した全検体の重量、そのうち調査した検体の重量、選別後の調査品目ごとの重量を示している。また、調査品目ごとに、調査した検体の重量に対する割合を算出した。

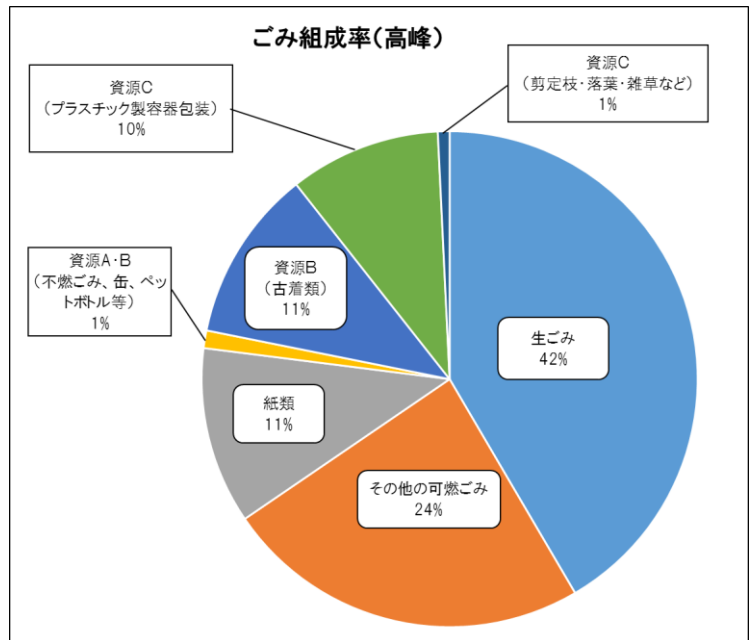
なお、調理くずの内、過剰除去については「食品ロスの調査マニュアル」に基づき、生ごみ全体の重量に11.1%を乗じて推計値を算出した。また、水切りネットなどに溜められて排出されている生ごみについては、「食べ残し」と「調理くず等」の判別が困難な場合がほとんどのため、全て「調理くず等」へと判別した。

各収集ブロックから合わせて約550kgの検体を採取し、そのうち、およそ4分の1の量にあたる約140kgの検体を調査した。

(2) 各収集ブロックの結果・特性

ア. 高峰

採取地区	高峰地区	
採取(調査)日	平成30年6月5日(火)	
天候	晴	
開始・終了時刻	7:35 ~ 11:00	
作業人員(人)	3.0	
採取検量(kg)・袋数(袋)	105.2	32
調査検量(kg)・袋数(袋)	26.2	8
湿ベース組成品目	重量(kg)	重量比(%)
生ごみ	10.88	41.56
直接廃棄	1.58	6.04
食べ残し	2.12	8.10
調理くず等 (内、過剰除去の量)	7.18	27.43
その他の可燃ごみ	6.26	23.91
もやすごみ	17.14	65.47
紙類	3.02	11.54
新聞・折込チラシ(資源化可能なもの)	0.00	0.00
雑誌・本・書籍(資源化可能なもの)	0.00	0.00
ダンボール(資源化可能なもの)	0.16	0.61
雑古紙(資源化可能なもの)	2.80	10.70
紙パック(資源化可能なもの)	0.06	0.23
不分別物	6.02	22.99
資源A・B (不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	0.30	1.15
資源B (古着類)	2.94	11.23
資源C (プラスチック製容器包装)	2.58	9.85
資源C (剪定枝・落葉・雑草など)	0.20	0.76
紙類 + 不分別物 (A)	9.04	34.53
総量 (B)	26.18	
分別率(100-(A/B))(%)	65.50	



高峰では他の地域に比べ、「生ごみ」、特に「調理くず等」が多い結果となった。これは、三増や小沢などの農業地域を含んでいることから、野菜くずなどが多かったものであると推測される。

なお、調査検体中に厚手のタオルケットが含まれていたことから、他の地域に比べ「古着類」の割合が大きくなった。

その他の資源物についても、紙類やプラスチック製容器包装が10%ほど含まれている結果となった。

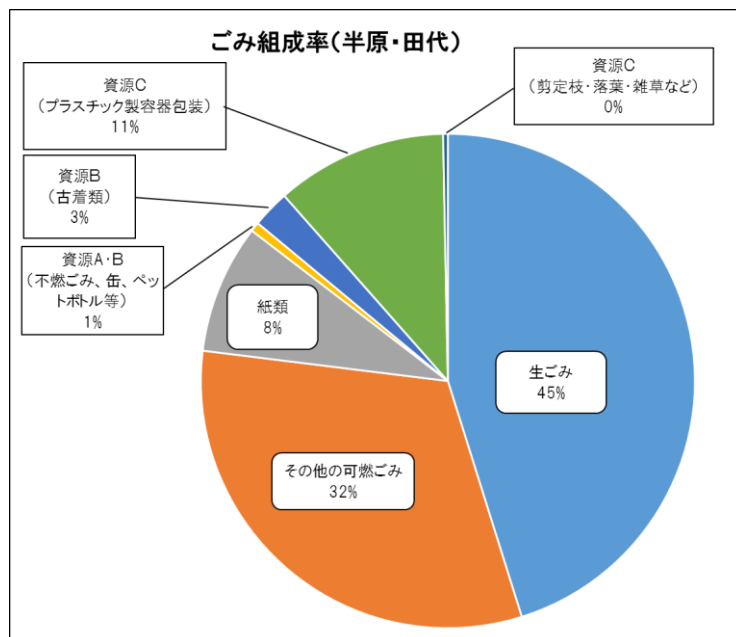


調理くず中には、野菜くずが多く含まれていた。キャベツの外葉などもあり、それらが生ごみの重量を占めている。

右の写真は古着類を写したものの。

イ. 半原・田代

採取地区	半原・田代地区	
採取(調査)日	平成30年6月7日(木)	
天候	曇	
開始・終了時刻	7:30 ~ 11:10	
作業人員(人)	3.0	
採取検量(kg)・袋数(袋)	106.34	28
調査検量(kg)・袋数(袋)	26.04	8
湿ベース組成品目	重量(kg)	重量比(%)
生ごみ	11.76	45.16
直接廃棄	1.80	6.91
食べ残し	1.66	6.37
調理くず等 (内、過剰除去の量)	8.30	31.87
その他の可燃ごみ	8.28	31.80
もやすごみ	20.04	76.96
紙類	2.20	8.45
新聞・折込チラシ(資源化可能なもの)	0.34	1.31
雑誌・本・書籍(資源化可能なもの)	0.00	0.00
ダンボール(資源化可能なもの)	0.00	0.00
雑古紙(資源化可能なもの)	1.64	6.30
紙パック(資源化可能なもの)	0.22	0.84
不分別物	3.80	14.59
資源A・B (不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	0.16	0.61
資源B (古着類)	0.64	2.46
資源C (プラスチック製容器包装)	2.92	11.21
資源C (剪定枝・落葉・雑草など)	0.08	0.31
紙類 + 不分別物 (A)	6.00	23.04
総量 (B)	26.04	
分別率(100-(A/B)) (%)		77.00



半原・田代では高峰と同じように農業地域があるため、野菜くずが多かった。また、小売店等も少ないことから、買い溜めしている家庭も多いようであり、他の地域に比べ「直接廃棄」の重量・割合が多い結果となった。

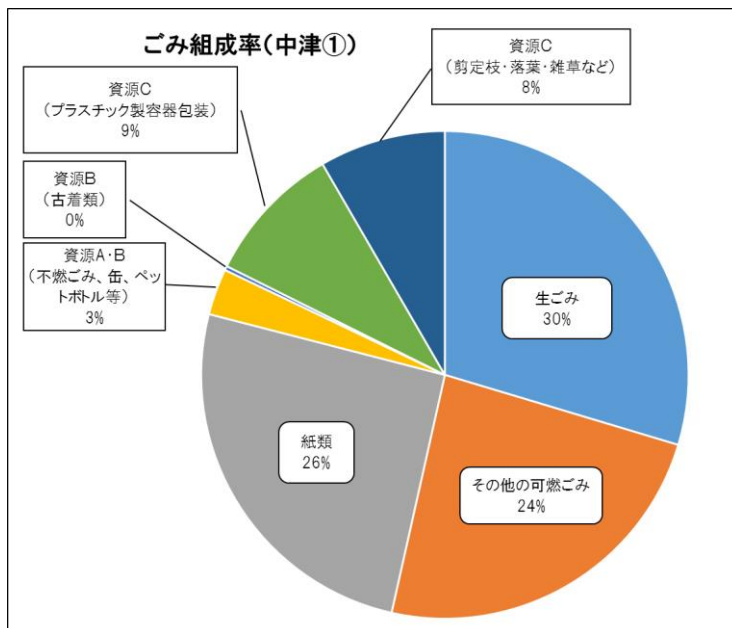
生ごみなどの可燃ごみが重量の大半であったため、分別率としては他の地域に比べ良い結果となった。しかしながら、水切りがされていないものがほとんどであったため、ごみの減量を図る上で、水きりなどの啓発を行う必要がある。



左が「直接廃棄」された生ごみの一部で、右が「食べ残し」。半分食べ残されたピザなどが排出されていた。

ウ. 中津①

採取地区	中津①地区	
採取(調査)日	平成30年6月15日(金)	
天候	曇のち雨	
開始・終了時刻	7:30 ~ 11:30	
作業人員(人)	3.0	
採取検量(kg)・袋数(袋)	114.00	32
調査検量(kg)・袋数(袋)	29.02	11
湿ベース組成品目	重量(kg)	重量比(%)
生ごみ	8.60	29.63
直接廃棄	0.24	0.83
食べ残し	1.38	4.76
調理くず等	6.98	24.05
(内、過剰除去の量)	0.95	3.29
その他の可燃ごみ	6.93	23.88
もやすごみ	15.53	53.51
紙類	7.40	25.50
新聞・折込チラシ(資源化可能なもの)	1.28	4.41
雑誌・本・書籍(資源化可能なもの)	0.23	0.79
ダンボール(資源化可能なもの)	1.09	3.76
雑古紙(資源化可能なもの)	4.48	15.44
紙パック(資源化可能なもの)	0.32	1.10
不分別物	6.09	20.99
資源A・B(不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	0.89	3.07
資源B(古着類)	0.08	0.28
資源C(プラスチック製容器包装)	2.69	9.27
資源C(剪定枝・落葉・雑草など)	2.43	8.37
紙類 + 不分別物(A)	13.49	46.49
総量(B)	29.02	
分別率(100・(A/B)) (%)	53.50	



中津①は内陸工業団地の外周沿いにあるため、アパートなど単身世帯向け住宅が多くあり、自炊をしていない世帯が多いことが推測される。このことから、生ごみが少なく、紙類などの資源物が多く含まれていた。

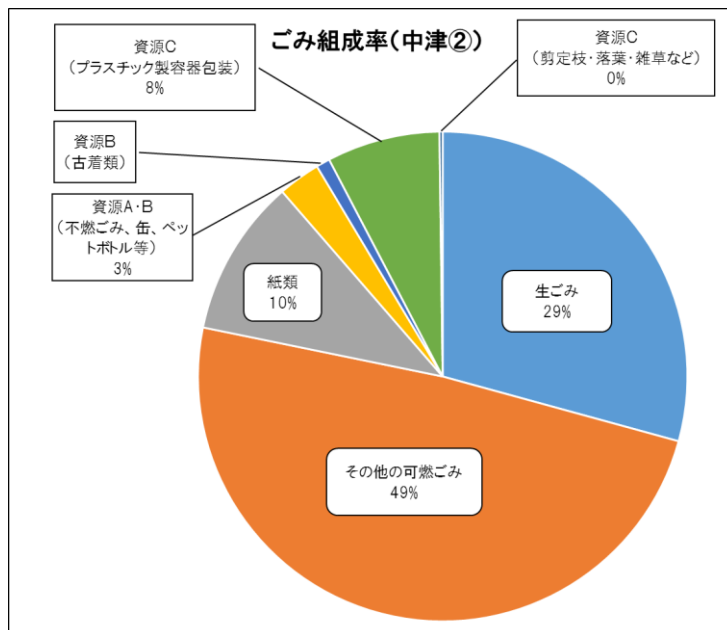
資源物が組成率の半数近くを占めていたことから、紙類を中心に啓発をする必要がある。



雑古紙や新聞紙などの紙類が多く含まれており、調査検体の25%以上を占めていた。

Ⅰ. 中津②

採取地区	中津②地区	
採取(調査)日	平成30年6月22日(金)	
天候	晴	
開始・終了時刻	7:30 ~ 11:45	
作業人員(人)	20	
採取検量(kg)・袋数(袋)	116.98	31
調査検量(kg)・袋数(袋)	28.64	9
ベース組成品目	重量(kg)	重量比(%)
生ごみ	8.38	29.26
直接廃棄	0.58	2.03
食べ残し	1.98	6.91
調理くず等	5.82	20.32
(内、過剰除去の量)	0.93	3.25
その他の可燃ごみ	14.02	48.95
もやすごみ	22.40	78.21
紙類	2.98	10.41
新聞・折込チラシ(資源化可能なもの)	0.08	0.28
雑誌・本・書籍(資源化可能なもの)	0.00	0.00
ダンボール(資源化可能なもの)	0.32	1.12
雑古紙(資源化可能なもの)	2.12	7.40
紙パック(資源化可能なもの)	0.46	1.61
不分別物	3.26	11.38
資源A・B(不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	0.80	2.79
資源B(古着類)	0.26	0.91
資源C(プラスチック製容器包装)	2.14	7.47
資源C(剪定枝・落葉・雑草など)	0.06	0.21
紙類 + 不分別物(A)	6.24	21.79
総量(B)	28.64	
分別率(100-(A/B)) (%)	78.20	



中津②はアパートなど単身世帯向け住宅が多くあり、生ごみが少なく、紙類などの資源物が含まれていた。

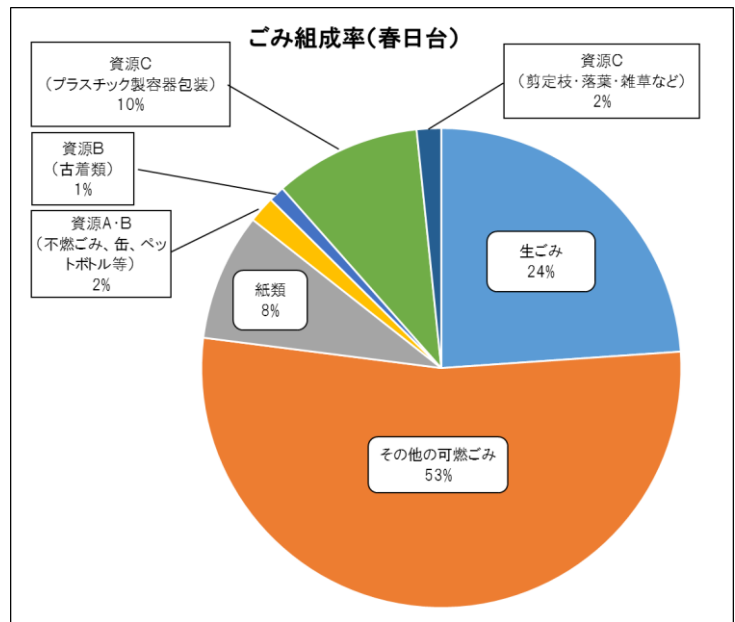
子育て世帯が多いのか、紙おむつなどの「その他の可燃ごみ」がほとんどであったため、分別率は良い結果となった。



弁当の食べ残しや他の地域と比べ、紙パックの量が多かった。他の地域に比べ比重は少ないものの、紙類は他の地域同様、10%以上を占める結果となった。

才. 春日台

採取地区	春日台地区	
採取(調査)日	平成30年6月14日(木)	
天候	曇ときどき晴	
開始・終了時刻	7:30 ~ 11:00	
作業人員(人)	4.0	
採取俵量(kg)・袋数(袋)	10666	30
調査俵量(kg)・袋数(袋)	2794	11
温ベース組成品目	重量(kg)	重量比(%)
生ごみ	6.68	23.91
直接廃棄	0.96	3.44
食べ残し	2.60	9.31
調理くず等	3.12	11.17
(内、過剰除去の量)	0.74	2.65
その他の可燃ごみ	14.84	53.11
もやすごみ	21.52	77.02
紙類	2.40	8.59
新聞・折込チラシ(資源化可能なもの)	0.22	0.79
雑誌・本・書籍(資源化可能なもの)	0.00	0.00
ダンボール(資源化可能なもの)	0.06	0.21
雑古紙(資源化可能なもの)	1.88	6.73
紙バック(資源化可能なもの)	0.24	0.86
不分別物	4.02	14.39
資源A・B (不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	0.50	1.79
資源B (古着類)	0.30	1.07
資源C (プラスチック製容器包装)	2.76	9.88
資源C (剪定枝・落葉・雑草など)	0.46	1.65
紙類 + 不分別物 (A)	6.42	22.98
総量 (B)	2794	
分別率(100-(A/B)) (%)		77.00



春日台では子育て世帯が多いのか、紙おむつなどの「その他の可燃ごみ」が多くみられた。そのため、分別率は他の地域に比べ、良い結果である。

しかし、他の地域に比べ、食べ残しが多くみられたことから、食品の購入する量など、使いきり、食べきり運動などの啓発を行なう必要がある。

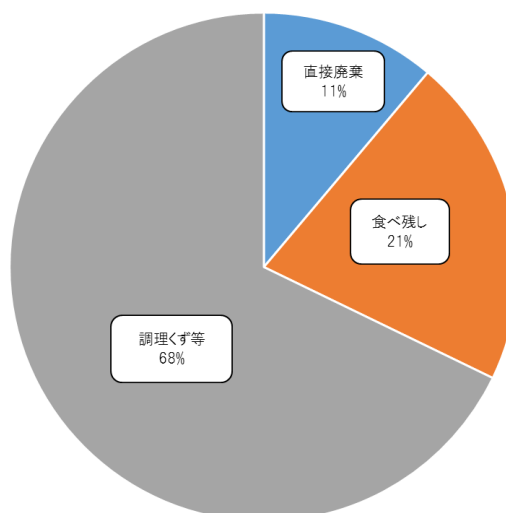


左は過剰除去の例。また、右は食べ残しで、パンの食べ残しが非常に多くみられた。季節によっては、賞味期限などとは関係なく、美味しく食べることができる期間が短くなってしまいうこともあるので、保存方法などにも注意してもらおう必要がある。

6. 食品ロス

	重量 (kg)
厨芥類	46.30
直接廃棄	5.16
食べ残し	9.74
調理くず等	31.40
(内、過剰除去の量)	5.14

※全体の結果より一部抜粋



全体の調査結果より、生ごみの組成率を算出すると、グラフのような割合となり、「直接廃棄」が11%、「食べ残し」が21%、「調理くず等」が68%となった。また、「調理くず等」の中には、「過剰除去」が11%ほど含まれている。

調査した検体の総量137.82kgの組成率より、「直接廃棄」、「食べ残し」、「過剰除去」の割合は約14.5%になることになる。

そこで、「食品ロスの調査マニュアル」に基づき、家庭から年間でどれくらいの食品ロスが発生したかを算出すると、次のようになる。

- 「直接廃棄」、「食べ残し」、「過剰除去」の割合から算出した平成28年度の食品ロス発生量

$$\frac{6,548(t)}{\text{平成28年度 神奈川県 一般廃棄物処理事業の概要 「生活系可燃ごみ等収集量」}} \times \frac{0.145}{\text{「直接廃棄」、「食べ残し」、「過剰除去」の割合}} = \frac{949.46(t)}{\text{平成28年度に発生したと思われる食品ロス}}$$

以上の計算より、町では年間で約950トンの食品ロスが発生していると推測することができる。さらに、平成28年度における一人あたりの年間排出量は次のとおり。

- 平成28年度の一人あたりの食品ロス発生量

$$\frac{949,460(kg)}{\text{平成28年度に発生したと思われる食品ロス}} \div \frac{40,167(人)}{\text{人口 (平成28年10月1日現在)}} = \frac{23.6(kg/人)}{\text{平成28年度に発生したと思われる一人あたりの食品ロス}}$$

7. 今後・対策

(1) 分別

5項の結果より、排出される可燃ごみの中には3割近くの資源が含まれていることが分かるが、これらの分別率を向上させるため、町の広報紙やホームページなどを使い啓発をする方法がある。定期的に広報紙などで分別の仕方などを周知し、分別を呼びかけることで、分別率の向上を図りたい。特に紙類、プラスチック製容器包装は全体の結果から合わせて2割以上含まれているため、分別を行なってもらえるよう、工夫していきたい。



※平成30年度 広報あいかわ7月号より



※平成29年度 広報あいかわ3月号より

(2) 食品ロス

6項の結果から、町の家から発生していると思われる食品ロスの量は平成28年度で949.46トン、一人あたりにすると23.6キログラムもの食品が家庭から廃棄されていることになる。

国では「第四次循環型社会形成推進基本計画」において2030年までに、2000年を基準として、家庭系食品ロスの発生量を半減させるという目標を示していることから、次の2000年（平成12年度）における町で発生した食品ロス発生量推計値を参考にすると、町では2030年までに、一人あたりの食品ロス発生量を36.9キログラムから18.45キログラムまで減少させるよう努めることとする。

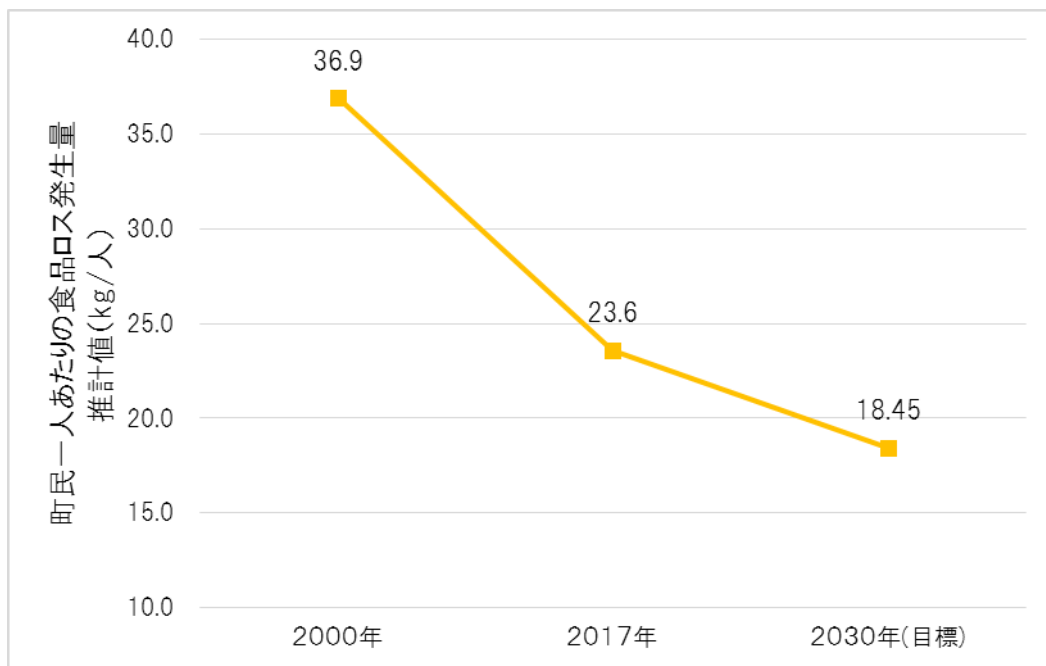
- 「直接廃棄」、「食べ残し」、「過剰除去」の割合から算出した2000年（平成12年度）の食品ロス発生量

$$\begin{array}{r}
 \underline{10,887(t)} \\
 \text{平成12年度 神奈川県} \\
 \text{一般廃棄物処理事業の概要} \\
 \text{「可燃ごみ収集量」} \\
 \text{「許可業者（事業系）」}
 \end{array}
 \times
 \begin{array}{r}
 \underline{0.145} \\
 \text{「直接廃棄」、「食べ残し」} \\
 \text{「過剰除去」の割合}
 \end{array}
 =
 \begin{array}{r}
 \underline{1,578.615(t)} \\
 \text{平成12年度に発生} \\
 \text{したと思われる食品ロス}
 \end{array}$$

- ・ 2000年（平成12年度）の一人あたりの食品ロス発生量

$$\frac{1,578,615 \text{ (kg)}}{42,762 \text{ (人)}} = 36.9 \text{ (kg/人)}$$

平成12年度に発生したと思われる食品ロス 人口（平成12年10月1日現在） 平成12年度に発生したと思われる一人あたりの食品ロス



(図) 食品ロス発生量の基準年から目標年までの比較

算定式及びグラフより町では2000年から2017年までに一人あたりの食品ロス発生量が13.3キログラム減量したことになる。また、2017年から目標年である2030年までにはあと5.15キログラム減量することで目標を達成することができる。

そのためにも、平成28年度に作成したポスターなどを活用した啓発や、広報紙等で、各家庭向けに「食べきり」、「使いきり」などの削減を呼びかけるほか、飲食店等においても「30・10運動」などの食べきり運動等をしてもらい、食事を残さず食べてもらう、残すことは「もったいない」という意識を一人ひとりに持ってもらうことを呼びかけ、食品ロスの削減に努めたい。



※町作成ポスター 「ぜんぶたべなきゃいかんゾウ！」

○参考資料

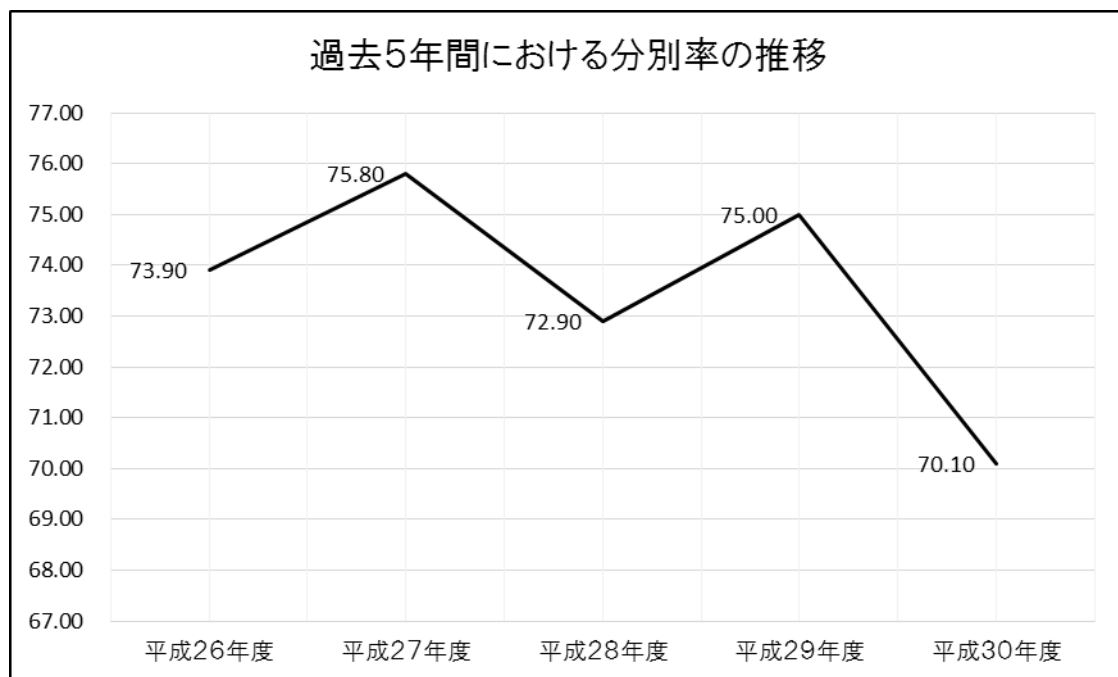
- 環境省 平成30年6月策定
「第四次循環型社会形成推進基本計画」
- 神奈川県ごみ処理広域化推進会議 平成30年3月策定
「食品ロスの調査マニュアル」
- 神奈川県 平成30年3月策定
「平成28年度 神奈川県 一般廃棄物処理事業の概要」

愛川町可燃ごみ質分析調査結果一覧 (H30)

採取地区	高峰地区		半原・田代地区		中津①地区		中津②地区		春日台地区		全 体						
	平成30年6月5日(火)	平成30年6月7日(木)	平成30年6月15日(金)	平成30年6月22日(金)	平成30年6月14日(木)	天 候	開始・終了時刻	作業人員(人)	採取俵量 (kg)・袋数(袋)	調査俵量 (kg)・袋数(袋)		湿ペース組成品目					
	晴	曇	曇のち雨	晴	曇ときどき晴	7:35 ~ 11:00	30	106.34	28	114.00	32	116.98	31	106.66	30	549.20	153
	7:35 ~ 11:00	7:30 ~ 11:10	7:30 ~ 11:30	7:30 ~ 11:45	7:30 ~ 11:00												
	30	30	30	20	40												
	105.22	32	114.00	32	116.98												
	26.18	8	26.04	8	29.02												
	重量 (kg)	重量 (%)	重量 (kg)	重量 (%)	重量 (kg)	重量 (%)	重量 (kg)	重量 (%)	重量 (kg)	重量 (%)	重量 (kg)	重量 (%)	重量 (kg)	重量 (%)	重量 (kg)	重量 (%)	重量 (%)
生ごみ	10.88	41.56	11.76	45.16	8.60	29.63	8.38	29.26	6.68	23.91	46.30	33.59					
直接廃棄	1.58	6.04	1.80	6.91	0.24	0.83	0.58	2.03	0.96	3.44	5.16	3.74					
食べ残り	2.12	8.10	1.66	6.37	1.38	4.76	1.98	6.91	2.60	9.31	9.74	7.07					
調理くず等	7.18	27.43	8.30	31.87	6.98	24.05	5.82	20.32	3.12	11.17	31.40	22.78					
(内、過剰除去の量)	1.21	4.61	1.31	5.01	0.95	3.29	0.93	3.25	0.74	2.65	5.14	3.73					
その他の可燃ごみ	6.26	23.91	8.28	31.80	6.93	23.88	14.02	48.95	14.84	53.11	50.33	36.52					
もやしごみ	17.14	65.47	20.04	76.96	15.53	53.51	22.40	78.21	21.52	77.02	96.63	70.11					
紙類	3.02	11.54	2.20	8.45	7.40	25.50	2.98	10.41	2.40	8.59	18.00	13.06					
新聞・折込チラシ (資源化可能なもの)	0.00	0.00	0.34	1.31	1.28	4.41	0.08	0.28	0.22	0.79	1.92	1.39					
雑誌・本・書籍 (資源化可能なもの)	0.00	0.00	0.00	0.00	0.23	0.79	0.00	0.00	0.00	0.00	0.23	0.17					
ダンボール (資源化可能なもの)	0.16	0.61	0.00	0.00	1.09	3.76	0.32	1.12	0.06	0.21	1.63	1.18					
雑古紙 (資源化可能なもの)	2.80	10.70	1.64	6.30	4.48	15.44	2.12	7.40	1.88	6.73	12.92	9.37					
紙バック (資源化可能なもの)	0.06	0.23	0.22	0.84	0.32	1.10	0.46	1.61	0.24	0.86	1.30	0.94					
不分別物	6.02	22.99	3.80	14.59	6.09	20.99	3.26	11.38	4.02	14.39	23.19	16.83					
資源A・B (不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	0.30	1.15	0.16	0.61	0.89	3.07	0.80	2.79	0.50	1.79	2.65	1.92					
資源B (古書籍)	2.94	11.23	0.64	2.46	0.08	0.28	0.26	0.91	0.30	1.07	4.22	3.06					
資源C (プラスチック製容器包装)	2.58	9.85	2.92	11.21	2.69	9.27	2.14	7.47	2.76	9.88	13.09	9.50					
資源C (郵便袋・落葉・雑草など)	0.20	0.76	0.08	0.31	2.43	8.37	0.06	0.21	0.46	1.65	3.23	2.34					
紙類 + 不分別物 (A)	9.04	34.53	6.00	23.04	13.49	46.49	6.24	21.79	6.42	22.98	41.19	29.89					
総 量 (B)	26.18		26.04		29.02		28.64		27.94		137.82						
分別率 (100 - (A/B) (%)	65.50		77.00		53.50		78.20		77.00		70.10						

愛川町可燃ごみ質分析調査結果比較 (H26~H30)

実施年度	平成26年度		平成27年度		平成28年度		平成29年度		平成30年度	
採取検量 (kg) ・ 袋数 (袋)	804.40	200	683.40	200	794.70	200	587.00	200	549.20	153
調査検量 (kg) ・ 袋数 (袋)	804.40	200	683.40	200	794.70	200	587.00	200	137.82	47
湿ベース組成品目	重量 (kg)	重量比 (%)	重量 (kg)	重量比 (%)	重量 (kg)	重量比 (%)	重量 (kg)	重量比 (%)	重量 (kg)	重量比 (%)
生ごみ	360.20	44.78	283.00	41.41	356.50	44.86	249.30	42.47	46.30	33.59
直接廃棄							29.70	5.06	5.16	3.74
食べ残し									9.74	7.07
調理くず等							219.60	37.41	31.40	22.78
(内、過剰除去の量)							27.67	4.71	5.14	3.73
その他の可燃ごみ	234.00	29.09	235.30	34.43	222.90	28.05	190.70	32.49	50.33	36.52
もやしごみ	594.20	73.87	518.30	75.84	579.40	72.91	440.00	74.96	96.63	70.11
紙類	74.50	9.26	68.20	9.98	103.20	12.99	71.20	12.13	18.00	13.06
新聞・折込チラシ (資源化可能なもの)	9.20	1.14	8.40	1.23	11.30	1.42	6.80	1.16	1.92	1.39
雑誌・本・書籍 (資源化可能なもの)	6.50	0.81	13.90	2.03	19.60	2.47	5.30	0.90	0.23	0.17
ダンボール (資源化可能なもの)	3.80	0.47	3.60	0.53	6.90	0.87	6.50	1.11	1.63	1.18
雑古紙 (資源化可能なもの)	50.00	6.22	38.90	5.69	61.90	7.79	48.30	8.23	12.92	9.37
紙パック (資源化可能なもの)	5.00	0.62	3.40	0.50	3.50	0.44	4.30	0.73	1.30	0.94
不分別物	135.70	16.87	96.90	14.18	112.10	14.11	75.80	12.91	23.19	16.83
資源A・B (不燃ごみ、缶、ペットボトル等)	12.80	1.59	12.10	1.77	8.80	1.11	5.10	0.87	2.65	1.92
資源B (古着類)	18.40	2.29	8.10	1.19	16.20	2.04	14.30	2.44	4.22	3.06
資源C (プラスチック製容器包装)	41.00	5.10	31.40	4.59	45.00	5.66	42.00	7.16	13.09	9.50
資源C (剪定枝・落葉・雑草など)	63.50	7.89	45.30	6.63	42.10	5.30	14.40	2.45	3.23	2.34
紙類 + 不分別物 (A)	210.20	26.13	165.10	24.16	215.30	27.09	147.00	25.04	41.19	29.89
総 量 (B)	804.40		683.40		794.70		587.00		137.82	
分別率 (100- (A/B)) (%)	73.90		75.80		72.90		75.00		70.10	





愛川町

愛川町可燃ごみ質分析調査結果

平成30年7月

発行	愛川町環境経済部環境課廃棄物対策班
住所	神奈川県愛甲郡愛川町角田251番地1
電話	046-285-2111(代)
FAX	046-286-5021
e-mail	kankyo@town.aikawa.kanagawa.jp